



## 日本文学（近代文学）史講義

第3回

ロマンとリアルから漱石、鴎外

1

---

---

---

---

---

---

---

---

## 先週のまとめ

3つの作品を通じて

疋田が リアル について

言いたかったこと

リアルとは、現実に出るだけ近づくことであつたのでは？

実は、リアルとは、現実がなくても作れるのだ！

next

2

---

---

---

---

---

---

---

---

## リアルとは……

リアルとは、現実に近いのではない。

リアルに感じるルール（文法）が我々にある。

現実からリアルが出来るのではない。

リアルは、創られるのだ！（リアル文法の存在）



next

3

---

---

---

---

---

---

---

---

## リアル文法

①、リアルは、それぞれのジャンルで形成される

ジャンル①＝映画、漫画、詩、文学、詩歌、詞

ジャンル②＝恋愛モノ、スポ根モノ、成長譚……

②、それぞれのジャンル内での比較で「リアル」がすすむ

③、「リアル」と「ロマン」は割と近い

4

---

---

---

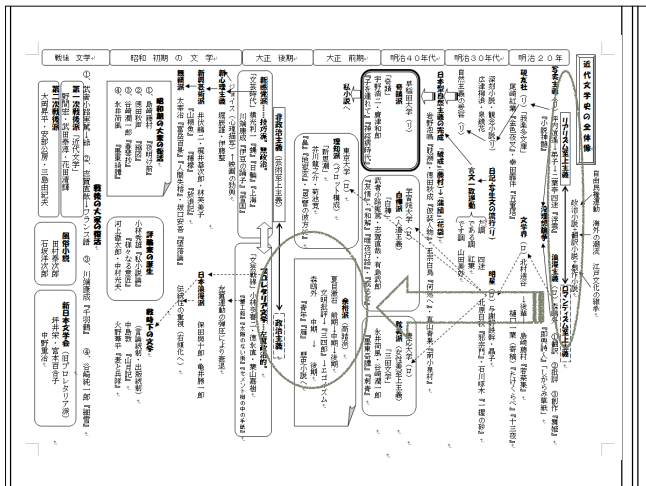
---

---

---

---

---



5

Blank writing lines for section 5.

## またまた近代文学のはじまり

坪内逍遙 (1859-1935)

「小説神髓」 … 日本にも西洋のよう

な小説が必要じゃ。

西洋のような小説 = 近代文学

- ①、単なる娯楽でなく国を代表する芸術だ
- ②、その国の国語 (標準語) で書かれている
- ③、外国語に翻訳可能である
- ④、ある思想や観念が盛り込まれている

next

6

Blank writing lines for section 6.

## 二つの基本的な流れ

逍遙の考え… 文学は絵空事ではない。  
現実を正しく描写しないといけない。

弟子の二葉亭四迷

と、小説『浮城』

文字は現実描写よりも人間の精神を

next

7

Blank writing lines for section 7.

## 二つの作品を比べて見よう

『浮城』

二葉亭四迷の長編小説。1887年 (明治20年) から1889年にかけて発表。

内海文三は徹頭の利かない男である。とくに何かをしったわけでもないが役所を免職になってしまい、プライドの高さゆえに上司に頼み込んで復職願いを出すことができずに苦悶する。だが一方で愛領のいい本田岸は出世し、一時は文三に気があった従妹のお勢の心は本田の方を向いていくようである。お勢の母親のお政からも愛想を尽かされる中、お勢の心変わりが信じられない文三は、本田やお勢について自分勝手に様々な思いを巡らしながらも、結局何もできないままである。

『舞姫』 <http://www.nhk.or.jp/10min/gendabun/ja/frame.html?70810&10>

森鷗外 (明治23年)、『国民之友』に発表。

19世紀末、ドイツ留学中の官史、太田豊太郎は下宿に帰る途中、クロス街通りの教会の前で眠る美少女エリスと出会い、心を奪われる。父の葬儀代を工面してやり、以後清純な交際を続けるが、仲間の悪言によって豊太郎は免職される。

その後豊太郎はエリスと同棲し、生活費を工面するため新聞社のドイツ駐在通訳員という職を得た。エリスはやがて豊太郎の子を身籠る。友人である相沢謙吉の紹介で大臣のロシア訪問に随行し信頼を得ることができた。復職のめども立ち、また相沢の忠告もあり、豊太郎は日本へ帰国することを約束する。

8

Blank writing lines for section 8.

## 『舞姫』はロマン？

妙にリアリズムではないか？



官僚が異国の地で、恋をして、国の命運と彼女を比較すること…

これが、実はロマン！！！！



何が、ロマンかは、時代が決定する！！！！

(例) SFや推理小説

ロマン ← 想像 (創造) 現実 ← 想像 (創造) リアル

9

---

---

---

---

---

---

---

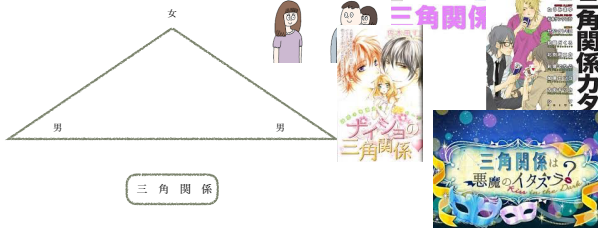
---

## 『舞姫』と『浮雲』 が得たもの

この二作品は、共通性がある

それは、知識人の苦悩と恋愛！

(近代文学の中の重要なテーマの一つになる)



10

---

---

---

---

---

---

---

---

## 三角関係の魅力

ジラールの欲望の三角形

「他人の欲望が自分の欲望になる」



欲望の対象



人の欲望

私の欲望

11

---

---

---

---

---

---

---

---

## 漱石の誕生と鴎外の復活

鴎外 文学に見切りをつけて、軍医の仕事へ

日清・日露戦争

漱石が文壇に登場 リアリズムの型

『我が輩は猫である』

『倫敦塔』

『三四郎』

漱石の復活 対抗ロマンリズム

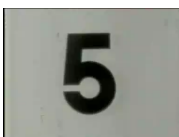
『青年』

『雁』



戦反正岡子規の死

全ての若者たち  
自然主義にも反自然主義  
にも、絶大な尊敬



12

---

---

---

---

---

---

---

---

## 鷗外と漱石のその後



鷗外

個人を綴る歴史小説へ

『阿部一族』 『澁江抽斎』

漱石

自分の究極の三角関係を目指す

「則天去私」

『道草』『明暗』



13

## まとめ

## ロマンとリアルは相互補完関係

①、リアルは、リアル文法（ジャンル経験値）から読者が「承認」して作られる（現実とは無関係）

どんな歴史性によって、リアル文法が構築されているのか

②、ロマンは、現実の経験から生み出される想像力（創造力）によってつくられる。

どんな現実が、まだ見ぬ世界、理想の世界をつくっているのか 時代の反映

14

## 今後の予定

鉄板の型（リアル文法）の形成史のサンプル

恋愛の文学史

### ①恋愛は近代的制度である

②恋愛は物語が先導し現実を規定している

15

## 最後に



文学史（物語史）を学ぶことは、物語  
という思考パターン（生活パターン）  
が規定される歴史・社会を学ぶこと

文学を学ぶことは、大文字の歴史に対する小文字の歴史を学ぶこと

[illegible]

16